

# アサガオ散歩

森野かずみ



マルバアサガオ

旧暦の七夕を中心に、形態が多種多様に变化した園芸植物アサガオが咲いています。アサガオはヒルガオ科サツマイモ属の1年性植物。花の外側から、がく片5個、花弁5個、おしべ5個、めしべ1個ですが、花弁は5個が合着しています。このようにがくと花冠の区別がはっきりとしていて、花弁の一部または全部が合着している花を合弁花冠と呼びます。

原産地は熱帯アジアやヒマラヤ山麓で、日本に薬用として種子が入ったのは奈良時代と平安時代との2説があり、江戸時代に観賞用としての品種改良が最も進んだという記録があります。

最近では、近縁種のアメリカソライロアサガオ(園芸名は西洋アサガオ)が多花性昼咲種として人気があるようです。原産地は熱帯アメリカで、茎に毛がなくとげがあり、1か所から6輪ほどの花が咲き、葉はサツマイモに似ています。

また、町中では、花色が早朝の青から昼の紫に変化する沖縄県原産のノアサガオ(園芸名は琉球アサガオ、オーシャンブルー、宿根アサガオ)を見かけます。

全体が大型で強健なので、鉢植えがおすすすめです。

以上の栽培品の他、多く見かける自生種としてマルバアサガオがあります。意外と多く繁殖しており、駐車場の縁などでよく見かけます。花柄が長くて花の径が8cm前後あり、花が咲いた後の果実が下向きになることと、葉がアサガオのように分裂しないことが大きな特徴です。

いろいろなアサガオがあることを思いながら、さわやか色の散歩をお続けください。

※ Kaceeのホームページでカラー写真をご覧いただけます。